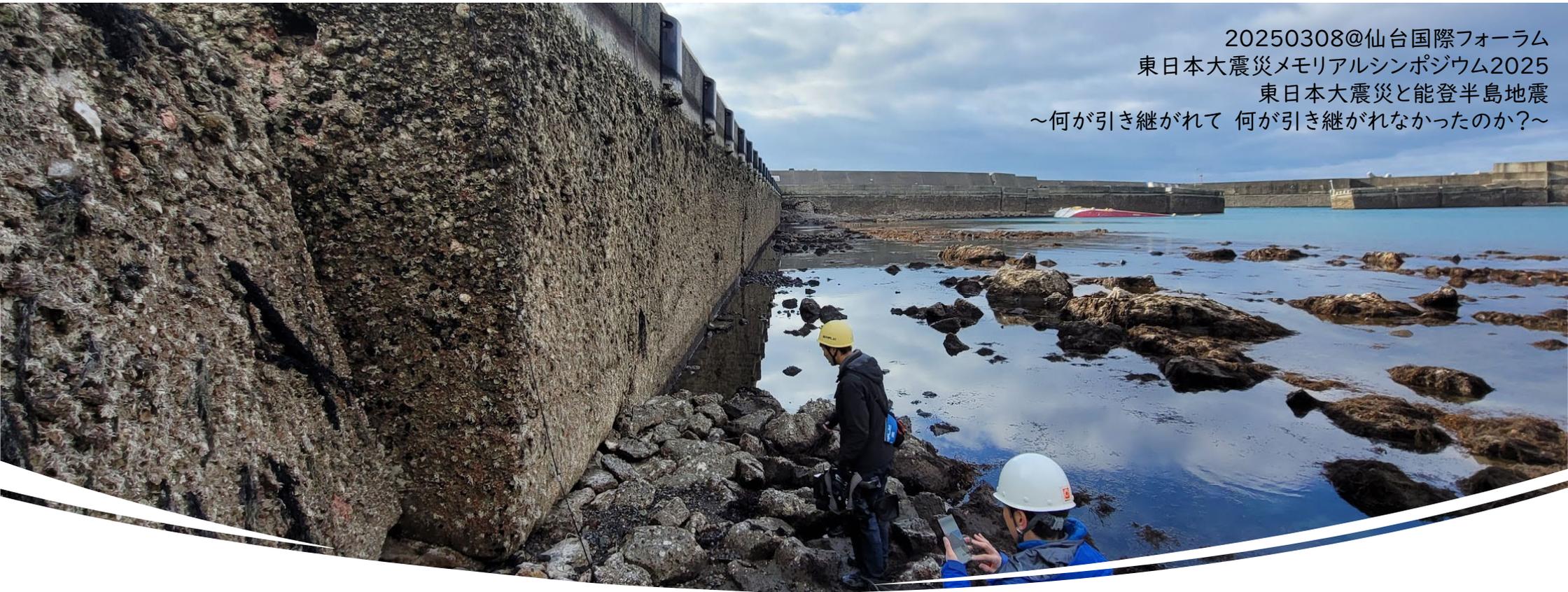


20250308@仙台国際フォーラム
東日本大震災メモリアルシンポジウム2025
東日本大震災と能登半島地震
～何が引き継がれて 何が引き継がれなかったのか?～



発災以降の
皆様のご支援に
感謝いたします

能登半島地震と防災教育 ～「脅しの防災教育」から「共生の防災教育」へ～

金沢大学地域創造学系 青木賢人
石川県学校防災アドバイザー・石川県防災会議震災対策部会委員

2007年能登半島地震時の状況

災害に対する意識・知識が低かった石川県

低頻度・高強度型の災害地域. 数世代のスケールで再来しないことから、「経験・伝承に基づいた防災教育」ができない地域. 安全神話「白山さんが守ってくれる」.

災害に対する危機感を持ってもらうことが必要
→ 脅しの防災教育

2007年能登半島地震時の津波認知・避難行動

	津波の想起	津波回避行動
一般市民	63.1%	22.4%
漁業者	94.9%	58.7%

林・青木 (2008), 青木・林 (2009) より



2011年東日本大震災を受けて①

津波想定の見直しと、住民対象と防災教育の強化

2007年能登半島地震は契機ならず

東日本大震災を受けて住民向け防災教育が強化される(2011~12年度)。危機管理課ではモデル地区を設けて、住民の向けに想定の周知とDIGを含む地区の避難計画づくり・避難訓練支援。自助・共助の強化。

→ 2024年能登半島地震の津波避難につながる

津波災害への備え

～津波避難対策支援事業のまとめ～
(平成25年3月)



https://www.pref.ishikawa.lg.jp/bousai/kikikanri_g/documents/tsunamisonae.pdf

石川県危機管理監室

2011年東日本大震災を受けて②

防災士育成の強化

東日本大震災を契機に、県が費用負担をしてコミュニティ防災士の育成を進める。町会単位で、かならず防災士がいる状態を作る。女性・外国人防災士の育成や、大学コンソーシアムと連携した学生防災士の育成も進める。2024年能登半島地震発生時には、全国有数の防災士数に。

一定の見識を持った人を地域に配置することで、地域住民の防災意識を高めたり、防災訓練の実効化を進めてきた。

石川県の防災士数 9,961人:全国6位
人口1000人当たり9.0人:全国5位
(2024.07現在)

平松・青木(2024):日本地震工学会誌

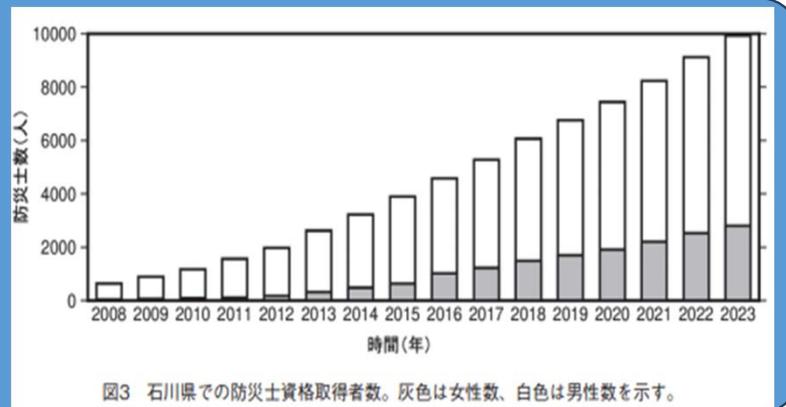


図3 石川県での防災士資格取得者数。灰色は女性数、白色は男性数を示す。



2011年東日本大震災を受けて③

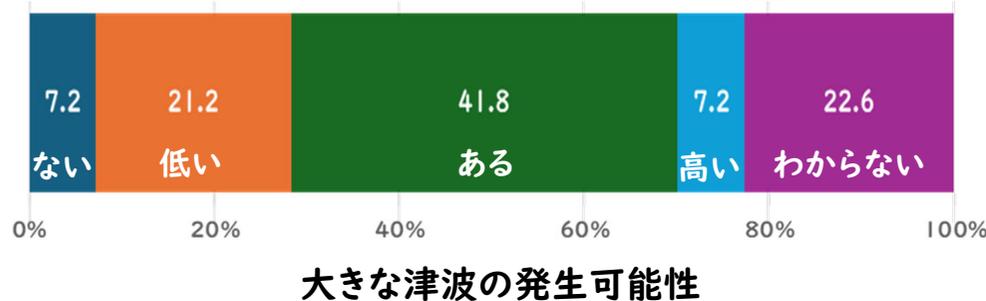
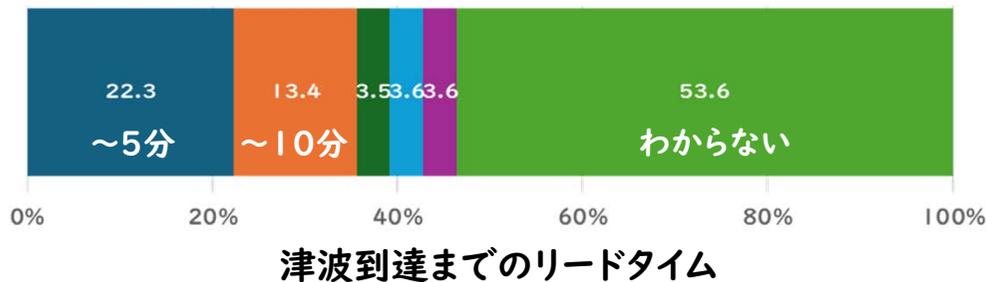
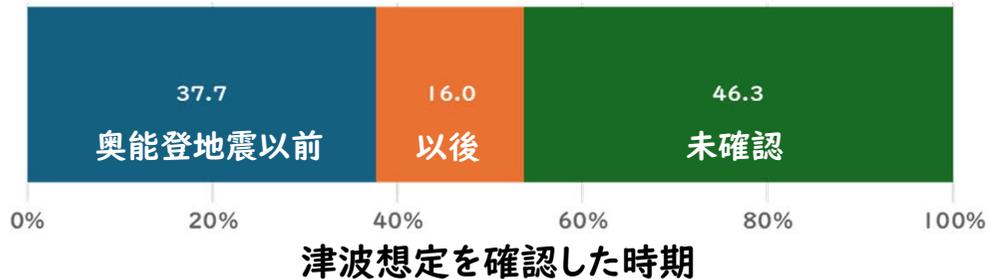
学校防災力と防災教育の強化

東日本大震災を受けての文部科学省の「実践的防災教育支援事業」を活用した防災教育支援の強化。2012年度から毎年、県内19市町立学校+1県立学校の合計20校をモデル校に、学校防災アドバイザーを派遣し、個別化した防災教育・学校防災計画支援を実施。学校一地域の連携も重視しており、避難所運営に向けた協議などの土台として活用されてきた。

防災学習を積んだ中学生が、高齢者を中心とした地域住民に対して防災講演会を行うなど、住民の学び合いの中で、リスク認識や取るべき行動が周知されていく。



防災教育の強化の成果と課題①



- 奥能登地震発生後（2023年8月）に珠洲市沿岸集落住民を対象にアンケート調査
 - 郵送配布 郵送回収 全世帯対象悉皆調査
 - 群発地震の活断層地震への移行を危惧し、珠洲市への提言と防災教育の強化を念頭にした調査
- 2007年能登半島地震直後に比べて、津波防災リテラシーが向上
 - 県の支援事業を通じた防災教育が奏功した？
- 必ずしも、住民全員の津波に対する意識が高かったわけではない = **二極化した意識構造**
 - 「早くから」「正しく」認知し、「危機感が高い」住民
 - 「興味なく」「知らず」、「危機感が低い」住民
 - **全員に周知は難しい・・・**

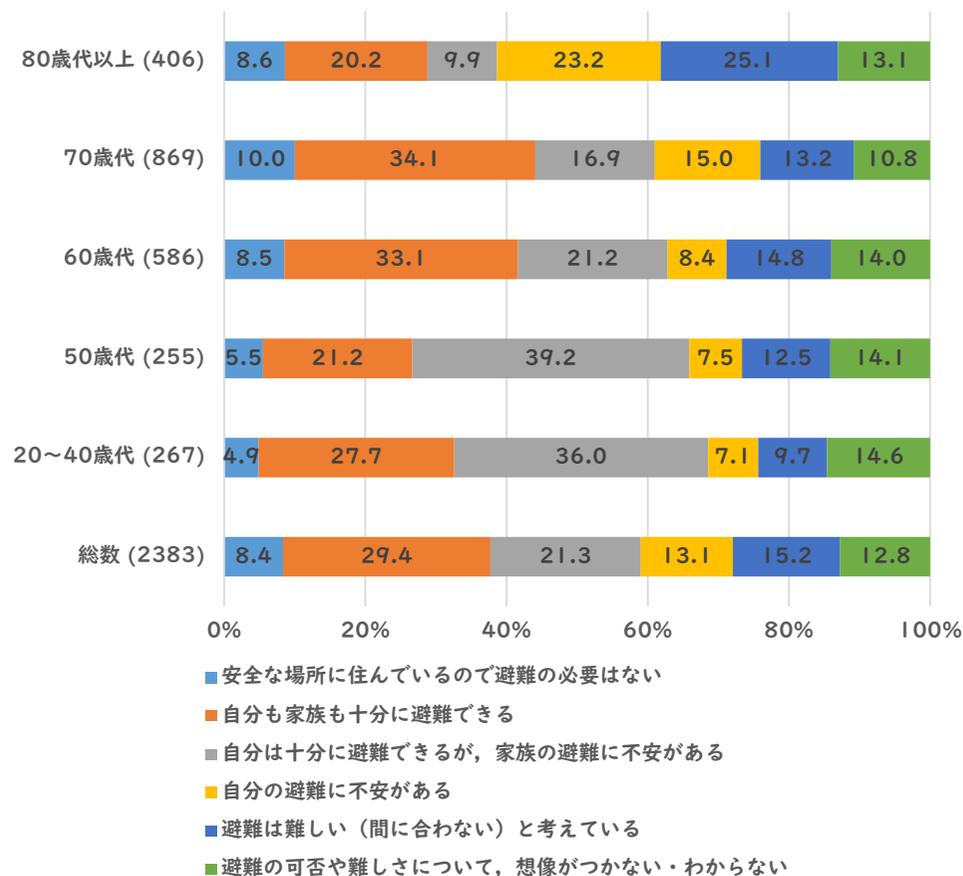
防災教育の強化の成果と課題②

● ギブアップ層の存在

- 避難の判断と開始ができたとして、逃げ切れるかについて問うている
- 70代以上では自身の避難に、20～50代では同居の高齢者の避難に対する不安を持っている。

● 「漠然とあきらめている層」と「わかったからあきらめた層」

- 全体を通して10～15%程度が避難しても間に合わない（ギブアップ）としているが、特に80歳以上では1/4がギブアップしている（該当者105名のうち68名は津波想定を把握していない）
- 「想定最大規模」を強調しすぎた弊害が生じている可能性。情報の伝え方の難しさ。



防災教育の強化の成果と課題③

- 2024年能登半島地震発生直後に津波が到達。重篤な被災地域の家屋倒壊はほぼ100%
- 津波犠牲者は2名のみ**
- 育成してきたリーダー層と積極的に訓練してきた住民（半数）が、残りの半数の無関心の住民を誘導することで全員の避難が成立
 - 地縁・血縁のつながりが強い能登だから成立した？

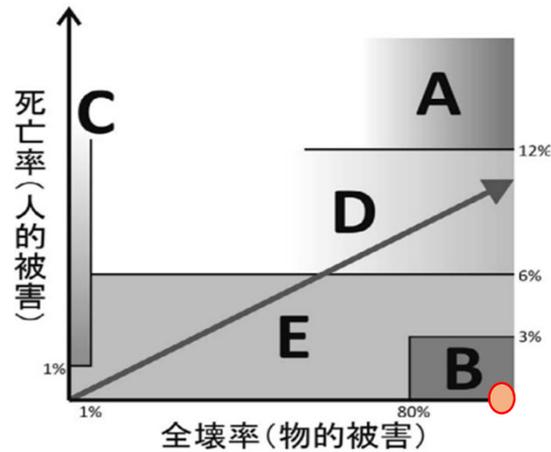


図4 被災地域の類型化(図式).
高橋・松多 2015 地学雑誌

5分で避難、全員無事 「奇跡じゃなく訓練」—津波襲来の高齢地区・珠洲市

2024年01月16日07時06分 配信



津波を受けるなどして倒壊した家屋 = 11日、石川県珠洲市三崎町

能登半島先端部に位置する石川県珠洲市三崎町は、地震と津波で壊滅的な被害を受けた。約40世帯90人ほどが暮らす町北部の寺家下出地区も地震から間もなく津波に襲われ、多くの住宅が倒壊。それでも大半を高齢者が占める住民は5分以内に高台に避難して全員無事だった。地区では東日本大震災をきっかけに毎年避難訓練を行っており、住民は「奇跡じゃなくて、訓練が生きた」と振り返る。

わずか3年、砕けた「完全復興」 回廊崩落、歌碑は真逆に—輪島市の総持寺祖院・能登地震

約2000年前の創建と伝わる須須神社がある同地区には、1日午後4時10分の地震発生から間もなく津波が襲来。海沿いを通る道や海岸の至る所に、家具やタイヤ、住宅の一部だったと思われる木材が散乱していた。

「この地震なら津波が来る」。東日本大震災以降、大地震と津波を想定した避難訓練を年1、2回続けてきた住民は、揺れが収まると荷物を持たずに、体一つで坂道などを上り、高台の集会所に向かった。近所同士で声を掛け合い、足の悪い人を背負うなど協力。地震から5分ほどで全員が集会所に到着すると、津波が到達したという。

過去の訓練では、毎回時間を計測。避難先の候補には神社なども挙がったが、混乱を防ぐために一つに絞っていた。奥浜敏孝さん(68)は、強い揺れに見舞われ「パニックになって、冷静に考えられなかった」が、自然と集会所へ足が向いた。

「普段からの訓練で、『大丈夫だろう』とは思わずに、家にいる方が怖いと思えた」という。

地区を襲う津波を目撃したという女性(53)によると、「すごい速さで来ていた。逃げていなかったらと考えたらゾッとした」。この女性は「普段訓練をしていなかったら、みんな死んでいたかもしれない。奇跡じゃなくて、訓練が生きた」と真剣な表情で語った。

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2024011500633&g=soc>

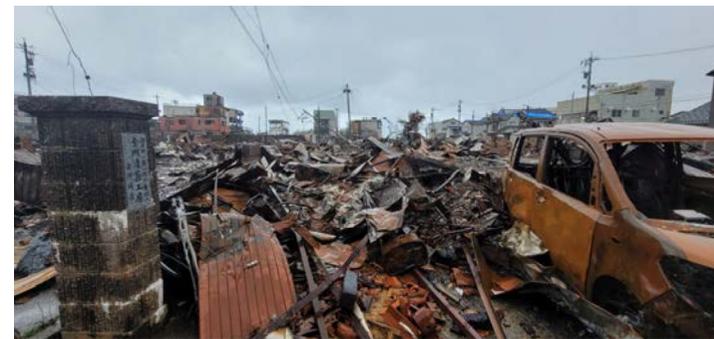


能登町白丸



珠洲市三崎町寺家

能登半島地震の多様な実相を伝承する



保存が決まった震災遺構

能登町・白丸郵便局を震災遺構に 4.93メートルの津波、看板検討

社会

2024/10/30 05:00

記事を保存 切り抜き紙面



能登町が「震災遺構」として保存、活用する
白丸郵便局＝能登町白丸

能登町は29日、元日の地震で損壊した同町白丸の白丸郵便局を、津波の脅威を伝える「震災遺構」として保存、活用する方針を決めた。未曾有の災害の記憶と教訓を次世代に継承して風化を防ぐ狙い。屋内外を見学できるようにするため、来年度以降に建物を改修する。

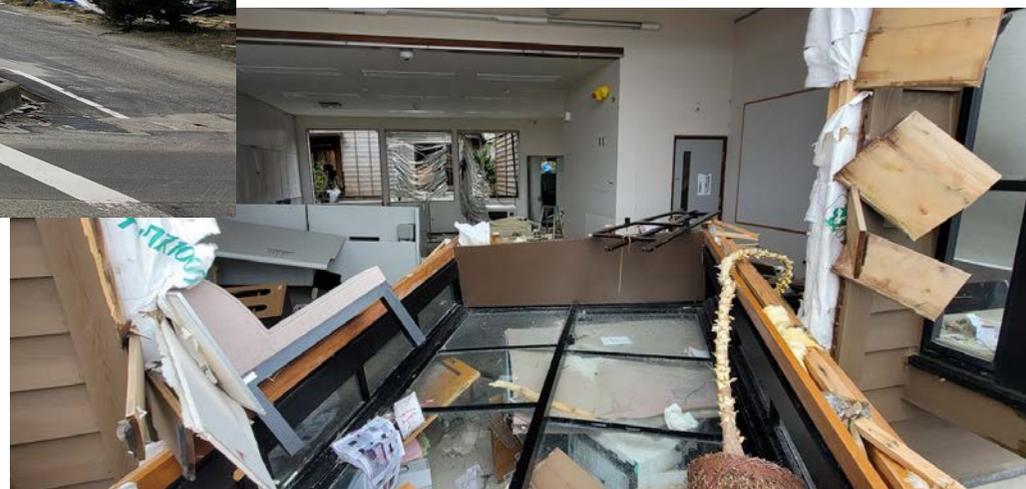
白丸郵便局は平屋建てで、1994年に改築された。元日は震度6強の揺れに加え、局舎前の海岸から押し寄せた津波で大きく壊れ、現在

も業務を休止している。



能登町 白丸郵便局

能登半島地震の被害の大きな特徴の一つである「津波」の破壊力の大きさを知ることができる。
保存のために町の**予算化が決定**している。



震災遺構を活用する具体的な動き

修学旅行の誘致に向けた震災学習プログラムの提案

県観光連盟主導で進められている作業。七尾・志賀以北の3市3町から震災遺構や防災学習をするための地点が提案されている。具体的な受け入れ先も決まっており、来年度には誘致を開始する。

ともに歩む能登

能登復興の旅 プログラム集

令和6年11月16日(日)10:00～17:00

令和6年11月16日(日)10:00～17:00、M7.6、最大震度7の大規模な地震発生を想定し、7.6の巨震に遭った能登半島の復興を支援する。震災遺構や防災施設を活用し、被災地を巡る。世界遺産道南に指定されている能登半島には、大きな震災を乗り越え、復興に向けた具体的な動きが展開されている。この旅の目的は、被災地を巡り、復興に向けた具体的な動きを知ること。石川県では、この復興の大きな動きを支援するために、いしかわ震災学習プログラムを開催します。

能登半島を巡る。震災遺構や防災施設を活用し、被災地を巡る。世界遺産道南に指定されている能登半島には、大きな震災を乗り越え、復興に向けた具体的な動きが展開されている。この旅の目的は、被災地を巡り、復興に向けた具体的な動きを知ること。石川県では、この復興の大きな動きを支援するために、いしかわ震災学習プログラムを開催します。

能登半島を巡る。震災遺構や防災施設を活用し、被災地を巡る。世界遺産道南に指定されている能登半島には、大きな震災を乗り越え、復興に向けた具体的な動きが展開されている。この旅の目的は、被災地を巡り、復興に向けた具体的な動きを知ること。石川県では、この復興の大きな動きを支援するために、いしかわ震災学習プログラムを開催します。

いしかわ震災学習プログラム

自然の驚異

防災・減災

復興への取り組み

自然の驚異	防災・減災	復興への取り組み
<p>1 能登半島地図から考える一人と旅の共生</p> <p>能登半島は、日本列島の北端に位置し、かつては交通の便がなかった。震災後、観光資源を活用し、観光客の誘致を図っている。この旅では、能登半島の歴史と文化を学び、復興に向けた取り組みを知ること。</p>	<p>2 震災遺構や防災施設を活用し、被災地を巡る</p> <p>震災遺構や防災施設を活用し、被災地を巡る。世界遺産道南に指定されている能登半島には、大きな震災を乗り越え、復興に向けた具体的な動きが展開されている。この旅の目的は、被災地を巡り、復興に向けた具体的な動きを知ること。</p>	<p>3 復興に向けた取り組みを知ること</p> <p>復興に向けた取り組みを知ること。石川県では、この復興の大きな動きを支援するために、いしかわ震災学習プログラムを開催します。</p>
<p>4 能登半島の歴史と文化を学ぶ</p> <p>能登半島の歴史と文化を学ぶ。能登半島には、多くの歴史と文化があり、観光客の誘致を図っている。この旅では、能登半島の歴史と文化を学び、復興に向けた取り組みを知ること。</p>	<p>5 震災遺構や防災施設を活用し、被災地を巡る</p> <p>震災遺構や防災施設を活用し、被災地を巡る。世界遺産道南に指定されている能登半島には、大きな震災を乗り越え、復興に向けた具体的な動きが展開されている。この旅の目的は、被災地を巡り、復興に向けた具体的な動きを知ること。</p>	<p>6 復興に向けた取り組みを知ること</p> <p>復興に向けた取り組みを知ること。石川県では、この復興の大きな動きを支援するために、いしかわ震災学習プログラムを開催します。</p>
<p>7 能登半島の歴史と文化を学ぶ</p> <p>能登半島の歴史と文化を学ぶ。能登半島には、多くの歴史と文化があり、観光客の誘致を図っている。この旅では、能登半島の歴史と文化を学び、復興に向けた取り組みを知ること。</p>	<p>8 震災遺構や防災施設を活用し、被災地を巡る</p> <p>震災遺構や防災施設を活用し、被災地を巡る。世界遺産道南に指定されている能登半島には、大きな震災を乗り越え、復興に向けた具体的な動きが展開されている。この旅の目的は、被災地を巡り、復興に向けた具体的な動きを知ること。</p>	<p>9 復興に向けた取り組みを知ること</p> <p>復興に向けた取り組みを知ること。石川県では、この復興の大きな動きを支援するために、いしかわ震災学習プログラムを開催します。</p>

「能登半島ジオパーク」構想

能登半島地震で考える「大切な命を守る」

2024/06/10 10:34 読売クオーターリー 2024 春号

この記事をスクラップする



自然を感じる

私たちは地震などの災害のたびに、自然の強大な力、恐ろしさを実感する。しかし、普段都会などで人工物に囲まれて生活していると自然の力を感じることは少ない。巨大なダムやビルなどの建造物を見ると、人間は自然を凌駕（りょうが）した、屈服させたと勘違いしそうにもなる。

大自然に触れることは、人間の存在のちっぽけさを感じさせ、地震などの自然災害に対しても謙虚な気持ちにさせてくれる。

地球のダイナミックさを感じるのにおすすめなのは、全国に46か所ある「ジオパーク」だ。プレートの運動や火山の活動が作り出した様々な地形や地質から、地球の仕組みや大地の成り立ちを知ることができる。切り立った崖や地層が曲がりくねった褶曲（しゅうきよく）は巨大な力が加わった証拠だ。

糸魚川（新潟県）では、日本列島を二つに分ける巨大な裂け目「フォッサマグナ」の境界を実際に見ることができ、日本列島の誕生の歴史の一端を感じられる。室戸（高知県）では、繰り返された南海トラフ地震で土地が隆起した痕跡を、山の上に平らな土地が続く海成段丘や、海面より高い位置にある洞窟、室津港の海面との高低差など様々な形で見ることができる。

ジオパーク以外にも、国の特別天然記念物に指定されている根尾谷断層（岐阜県）の水島断層は、史上最大の内陸型地震（直下型地震）だった1891年の濃尾地震（M8.0）の破壊力のすさまじさを実感させる。

もちろん、自然は決して恐ろしいだけではなく、私たちに多くの恵みを与えてくれる母なる存在でもある。豊かな自然に包まれながら、防災の意識を高め、「抗震力」を高めた

い。

- ◆ 【ジオパーク】特筆すべき地質・地形を保全しながら、環境理解・防災教育に活用するUNESCOの取り組み。石川県内では白山市が「白山手取川ユネスコ世界ジオパーク」として取り組んでいる。
- ◆ 県は、能登半島地震の震災遺構の一部をジオパークとして活用する計画を進めている。本発表で取り上げた遺構群の一部も、その枠組みの中で保全・活用されることを期待したい

<https://www.yomiuri.co.jp/choken/kijironko/cksocialsports/20240422-OYT8T50101/>

珪藻土の分布←長期的な隆起の結果



珪藻土を利用した珠洲の切り出し七輪



輪島塗の地の粉として利用される珪藻土

脅しの防災教育から共生の防災教育へ～まとめに変えて～

- 「脅しの防災教育」で津波を乗り越えた珠洲の住民
- 住み続けてもらうためには、自然史を理解した防災教育～共生の防災教育～が必要
 - 能登の自然史が作ってきた環境が里山・里海の暮らしを支えていること【自然の両面性】の理解
 - 内浦にも海岸段丘が広がっている→能登半島地震とは違う地震もありうることへの理解
 - 能登半島のジオパーク化. 自然史と防災を連動させた「共生の防災教育」への展開が不可欠

